



# NARA

NATIONAL INSTITUTE OF  
HIGHER EDUCATION AND RESEARCH

国立大学法人 奈良国立大学機構  
奈良教育大学／奈良女子大学

機構概要2023





奈良教育大学と奈良女子大学は、令和4年4月に法人統合し、「奈良国立大学機構」を設立しました。  
2つの大学が1つになるのではなく、奈良教育大学も奈良女子大学も存続し、  
それぞれ異なる強みを相互に提供しあい、これまでにない新しい国立高等教育機関として、  
教育・研究面の機能強化を図ります。

## 沿革

### 奈良教育大学

- 明治7年6月4日**  
教員伝習所として興福寺内に「寧楽書院」を創設
- 明治8年3月1日**  
伝習所を奈良(小学)師範学校と改称
- 明治21年7月31日**  
奈良県尋常師範学校を創設
- 明治31年4月1日**  
師範教育令により、奈良県尋常師範学校を奈良県師範学校と改称
- 明治38年4月1日**  
奈良県女子師範学校を創設(奈良県師範学校女子部を廃止)
- 昭和18年4月1日**  
師範教育令の改正により、奈良師範学校と改称
- 昭和19年4月1日**  
奈良青年師範学校と改称
- 昭和24年5月31日**  
国立学校設置法の公布により、奈良師範学校及び奈良青年師範学校を包括し、奈良学芸大学を設置
- 昭和41年4月1日**  
国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和41年法律第48号)により、奈良教育大学と改称
- 昭和58年4月1日**  
大学院教育学研究科修士課程を設置
- 平成16年4月1日**  
国立大学法人法の公布により、国立大学法人奈良教育大学を設置
- 平成19年4月1日**  
日本で初めて大学としてユネスコスクールに加盟
- 平成20年4月1日**  
大学院教育学研究科専門職学位課程(教職大学院)を設置

### 奈良女子大学

- 明治41年**  
奈良女子高等師範学校を設置
- 昭和24年**  
奈良女子高等師範学校を包括して、奈良女子大学が設置され、その学部は文学部及び理家政学部と定められた
- 昭和28年**  
理家政学部を理学部及び家政学部に分離
- 昭和39年**  
大学院家政学研究科(修士課程)設置
- 昭和40年**  
大学院理学研究科(修士課程)設置
- 昭和43年**  
大学院文学研究科(修士課程)設置
- 昭和55年**  
大学院文学研究科(博士課程)設置
- 昭和56年**  
大学院人間文化研究科(博士課程)設置(大学院文学研究科(博士課程)を包括)
- 平成5年**  
家政学部を生活環境学部に改組
- 平成10年**  
大学院人間文化研究科を区分制博士課程に改組
- 平成16年**  
「国立大学法人奈良女子大学」が奈良女子大学を設置
- 令和2年**  
大学院人間文化研究科を大学院人間文化総合科学研究科に名称変更
- 令和4年**  
工学部を設置

令和4年4月1日 国立大学法人奈良国立大学機構 発足

## 役員等一覧 (令和5年5月1日現在)

### 役員

理事長	榊 裕之	Sakaki Hiroyuki
大学総括理事(奈良教育大学長)	宮下 俊也	Miyashita Toshiya
大学総括理事(奈良女子大学長)	今岡 春樹	Imaoka Haruki
理事	榎本 剛	Enomoto Tsuyoshi
理事 ※非常勤	西村 いくこ	Nishimura Ikuko
監事	三野 博司	Mino Hiroshi
監事 ※非常勤	大久保 幸治	Okubo Koji
監事 ※非常勤	三谷 洋子	Mitani Yoko

### 経営協議会委員

#### [学内委員]

理事長	榊 裕之	Sakaki Hiroyuki
大学総括理事(奈良教育大学長)	宮下 俊也	Miyashita Toshiya
大学総括理事(奈良女子大学長)	今岡 春樹	Imaoka Haruki
理事	榎本 剛	Enomoto Tsuyoshi
理事 ※非常勤	西村 いくこ	Nishimura Ikuko

#### [学外委員]

あいちシンクロトン光センター所長	國枝 秀世	Kunieda Hideyo
独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館長	松本 伸之	Matsumoto Nobuyuki
東京大学名誉教授	松本 洋一郎	Matsumoto Yoichiro
森ビル不動産投資顧問株式会社 代表取締役社長	村岡 貞男	Muraoka Sadao
明日香村 村長	森川 裕一	Morikawa Yuichi
奈良県教育委員会 教育長	吉田 育弘	Yoshida Yasuhiro

# 「小さな総合大学」 の強みを活かし、 総合知人材を育もう

国立大学法人奈良国立大学機構理事長 榊 裕之



奈良国立大学機構傘下の奈良女子大学は、広い学術分野をカバーする比較的小規模の総合大学とされてきたのに対し、奈良教育大学は、教員養成を目的とする単科大学とされてきました。しかし、後者には国語・社会科・英語の教員を育てる人文・社会科学系の教員や数学・理科・技術・家庭科の教員を育てる理工系の教員に加え、音楽・美術・体育系の教員も擁しており、広い分野での学びと学際的対話に適した小規模総合大学であると言えます。

我が国の高等教育は、戦前、旧制高校の3年間で広汎な基礎教養科目をじっくり学んだ後、大学の3年間で専門科目を学び、両者で総合知を育む欧州型に近い制度でした。1949年の制度変更後は、大学4年間の前半で教養科目を学び、後半で専門科目を学ぶ制度になり、これが長く続きました。1980年代に入ると科学技術や産業の高度化に伴って専門教育にもっと時間を使うべきとの声が強まり、1991年に「大綱化」と呼ばれる再編がなされました。この変更は教養教育と専門教育の区分を外し、両者が支え合う仕組みを作ることが目的でしたが、結果的に専門教育が重視され、基礎教養教育が弱まることになりました。

「大綱化」が実施されたのは、日本企業の国際競争力が強く、大学生が個別分野で専門性を身に着ければ、十分に活躍可能と思われた時代でした。その後30年を経た昨今、ITの進展に伴う産業構造の変化、地球温暖化の進行、COVID-19やウクライナ侵攻による国際情勢の複雑化、日本企業の競争力の低下、国家財政の悪化、福島原発事故の後処理など、一分野の専門家では対処できない課題が続出しています。こうした課題には、個人としても、社会としても、広い視野から因果関係を分析し、複数分

野の科学技術的手法は勿論、経済や法律の知恵も動員できる「総合的知性」を備えた人材群による対応が必須です。このため、大学は教育内容を見直し、そうした人材を育てる仕組みを構築する動きが始まっています。

奈良教育大学と奈良女子大学は、法人統合を機に連携し、近隣の高等教育機関・博物館・研究機関の支援も得て教養教育の充実に努め、これを第一歩として総合知の涵養に努めています。例えば、今夏も開く「学問祭」では、各分野を先導する多様な講師による講義が提供されますが、聴講や質疑を通じ、個々の分野の断片的な知識の獲得よりも、該当分野を支える基幹の概念や他の分野との繋がりを着実に捉えさせ、諸学が提供する多様な知見を体系的に把握する力が養われることを期待しています。今後、専門教育も点検し、総合知の涵養に向け、個別分野における断片知識の習得は軽減し、該当分野の骨格となる主要事実や概念の学びに重点が移ることを願っています。これらの取組みが、未来の教育を牽引する教員や次代を切り拓く女性プロフェッショナルの輩出に繋がることを期待しています。

榊 裕之

SAKAKI HIROYUKI

工学博士。東京大学工学部電子工学科卒/同大工学研究科電子工学専攻博士課程修了。

専門は、半導体電子工学（ナノ構造による電子の量子制御と素子応用）。東京大学生産技術研究所教授などを経て、豊田工業大学副学長、学長を歴任。令和元年12月から日本学士院会員。令和3年6月から豊田工業大学名誉学長。令和4年4月国立大学法人奈良国立大学機構理事長就任。令和4年11月文化勲章受章。

# 幸福を持続可能にする大学へ

奈良教育大学長 宮下 俊也



奈良教育大学は、1888年（明治21年）に設置された奈良県尋常師範学校を起源とし、130余年の長きにわたって、教員養成と教育研究に努め、奈良県をはじめとする我が国の教育の発展に貢献してきました。また、2007年（平成19年）には大学として全国初のユネスコスクールに認定され、それに続いて認定された全附属学校園とともに、「持続可能な開発のための教育」を推進しています。これは、SDGs（持続可能な開発目標）の達成を教育の面から目指していくことでもあり、本学の重要な柱の一つとして位置付けています。

SDGsの理念は、世界の平和や人間の尊厳・安全保障を実現し、持続可能にすることです。これは地球規模で求めていくことであり、同時に、私たちの住む地域社会における課題を解決していくことでもあります。奈良教育大学は、「持続可能な開発のための教育」を担うことのできる教員を育てるとともに、やがて地域、日本、

そして世界において持続可能な社会の創り手となって活躍できる子供たちのために、グローバルとローカルな視点をもった教育研究を推進しています。

宮下 俊也

MIYASHITA TOSHIYA

芸術学修士。教育学修士。武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業/同大学大学院音楽研究科音楽教育専攻修了/上越教育大学大学院学校教育研究科学校教育専攻（教育方法コース）修了。専門は、音楽教育学。国立大学法人奈良教育大学理事・副学長（教育担当）を経て、令和4年4月国立大学法人奈良国立大学機構大学総括理事、奈良教育大学長就任。

# 特色ある高度な学術研究

奈良女子大学長 今岡 春樹



大学は研究をするところです。このことが実際に行われたのは19世紀初頭のドイツにおいてでした。その秘密はゼミナール方式と実験室方式による研究でした。ある分野の研究を深め、その分野の専門家を育成するには最適な方法です。一方で学問の細分化が起こり新たな学問分野が出来難くなりました。その後アメリカにおいて研究をする大学院が発明され、学部では視野を広げるようになりました。視野を広げると新分野が発掘されやすくなります。

奈良国立大学機構の2番目のミッションは「文理統合的知性の涵養と高度な専門教育により、総合知を持つ人材を育成し、特色ある高度な学術研究を推進する」です。総合知は研究そのものを俯瞰することにより、自分の研究と他人の研究の真価を捉えることです。別の言い方をすれば、研究全体のフロンティアとポトルネックを見抜く知のことで。

特色ある学術研究は、奈良女子大学の研究はここが強いということで、大学のイメージにとっても大切です。高度な学術研究とは、深いことに加えて人類への福音というニュアンスを感じます。ぜひ実現しましょう。

今岡 春樹

IMAOKA HARUKI

工学博士。東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻修士課程修了。専門は、アパレル工学、システム工学。国立大学法人奈良女子大学生環境学部長を経て、平成25年4月から国立大学法人奈良女子大学長に就任。令和4年4月国立大学法人奈良国立大学機構大学総括理事、奈良女子大学長就任。

## 機構設立記念式典の挙行

令和4年9月24日(土)、国立大学法人奈良国立大学機構設立記念式典を開催しました。榊理事長の挨拶では、伝統ある奈良教育大学、奈良女子大学がそれぞれの強みを提供し、相互に学びあい、支えあい、高めあいながら、また、地域とも連携を深めながら、学生・教職員がともに学びや研究を深めたいとの抱負が語られました。

式典ではカーネギーメロン大学ロボット研究所 金出武雄ワイタカー記念全学教授による基調講演「インパクトのある研究、インパクトのある大学」の後、金出教授を囲んで両大学の若手教員、大学院生によるクロストークを行いました。



## 経営方針(ミッション・ビジョン)の策定

両大学が、教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮し、社会の要請に応え続けていくことができるよう、両大学の多くの教職員との意見交換等を経て、本機構として遂行すべきミッションを策定しました。

あわせて、ミッションを踏まえたビジョン、目標・戦略を策定しました。それらの実現に向けた法人経営を進めて参ります。

### 機構スローガン

奈良から世界へ、古代から現代まで、  
深い学びで、次代を拓く、  
多様な人と文化の醸成拠点

初代理事長 榊 裕之

- ミッション
- 多様性を包摂し、互いを尊重し高め合う社会の構築に向けて、「社会をリードする女性人材の育成」と「次代を牽引する教員養成」を進める。
  - 文理統合的知性の涵養と高度な専門教育により、総合知を持つ人材を育成し、特色ある高度な学術研究を推進する。
  - 開かれた大学として、国際的な知の交流を推進するとともに、教育と研究を通じて、地域と社会に貢献する。

- ビジョン
- 奈良女子大学と奈良教育大学には、長年にわたり幅広い学問領域をカバーしながら、独自の教育と研究を進めてきた実績があり、こうした両大学が掲げてきた理念に基づいて大学運営に取り組む。その上で、
  - ①両大学の規模が学際的な対話の推進に適していることを活かして、分野・組織の壁を越えた文理統合的視点の涵養と高度な専門教育を進める。
  - ②奈良の豊富な文化資源の活用と多様な学術機関・自治体・産業界等との組織的な連携の構築、さらに、国際的な交流と研究の強化を通じて、奈良の魅力や強みを活かす学びと研究を実現する。
- これらを通じて、学生と教職員が、地域や社会の多様な人々とともに、学び合い、支え合い、高め合う組織を形成する。

## アドバイザーボードの委嘱

教育研究、国際交流、地域連携・産学連携、芸術文化に関する事項について、法人及び大学の運営に資するために、アドバイザーボードを設けました。これらに関し、高い見識をお持ちの方々就任いただき、機構役員、機構傘下の二大学の教員や学生に対し、ご助言などを賜ります。

<p>教育研究</p>  <p>東北大学・中国科学院大学 教授 物理 <b>ゲリット バウアー</b> Gerrit Bauer</p> <p>物性物理の理論 APSフェロー、応用物理学会フェロー 2023年ポルト研究賞</p>	<p>教育研究</p>  <p>カーネギーメロン大学ロボット研究所 ワイタカー記念全学教授 ロボット工学 <b>金出 武雄</b> Kanade Takeo</p> <p>顔認識、自動運転、超多数カメラメディアなどロボットと人工知能の研究 京都賞、文化功労者、日本学士院会員</p>	<p>教育研究</p>  <p>奈良先端科学技術大学院大学 学長 分子細胞生物学 <b>塩崎 一裕</b> Shiozaki Kazuhiro</p> <p>細胞内情報伝達機構の同定と解析 元カリフォルニア大学デービス校 教授(現同校客員教授)</p>	<p>地域・産学連携</p>  <p>株式会社中川政七商店 代表取締役会長 <b>中川 淳</b> Nakagawa Jun</p> <p>ビジョン・ブランディング 経営</p>
<p>教育研究</p>  <p>ロンドン芸術大学 客員教授 インクルーシブデザイン <b>ジュリア カセム</b> Julia Cassim</p> <p>英国FCAにおけるインクルーシブデザインの提唱・実践等の業績により「デザインの世界に最も影響を与えた50人」に選出(DesignWeek, 2010年)</p>	<p>教育研究</p>  <p>株式会社国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所 所長、 株式会社XNef 代表取締役社長 計算論的神経科学 <b>川人 光男</b> Kawato Mitsuo</p> <p>計算論的神経科学による脳機能の解明とBMIの開発 業績賞章、第112回日本学士院賞</p>	<p>教育研究</p>  <p>中部大学学術推進機構 特任教授 科学ジャーナリズム <b>辻 篤子</b> Tsuji Akioka</p> <p>元朝日新聞論説委員(科学技術、医療など担当) 元名古屋大学国際機構 特任教授 近著に「名大ウオッチ」</p>	<p>文化芸術</p>  <p>日本芸術院会員、独立美術協会会員、 東京芸術大学名誉教授 美術 <b>絹谷 幸二</b> Kinutani Koji</p> <p>アフレスコ古典壁画研究、現代絵画制作 文化功労者、文化勲章</p>
<p>教育研究</p>  <p>東京大学大学院総合文化研究科 教授 科学技術社会論 <b>藤垣 裕子</b> Fujigaki Yuko</p> <p>科学技術と社会の間に生起する事象の研究 2010年国際科学技術社会論学会(東京開催)プログラムチェア 主催に「専門性と公共性」「科学者の社会的責任」など</p>	<p>教育研究</p>  <p>ライス大学(Rice University) 教授 ハッセルマン記念教授・電気・計算機学科、 物理・天文学科、材料・メカニクス 固体物理学 <b>河野 淳一郎</b> Kano Junichiro</p> <p>半導体やカーボンのナノ構造の物理、量子光物性、 テラヘルツ分光、素子応用</p>	<p>地域・産学連携</p>  <p>DMG森精機株式会社 取締役社長 精密工学 <b>森 雅彦</b> Mori Masahiko</p> <p>精密加工計画、サステナブルな生産、デジタルツイン Industry4.0、(一社)日本工作機械工業会 副会長 CIRP(国際生産工学アカデミー) フェロー</p>	<p>文化芸術</p>  <p>ジャパン・ナショナル・オーケストラ 代表取締役社長 音楽家 <b>反田 恭平</b> Sarita Kyohei</p> <p>2021年シブコ国際ピアノコンクール第2位 奈良県下アウトリーチ実施 将来は音楽院を設置</p>

## 国際戦略センター(Nara ISC ならいすく)の発足

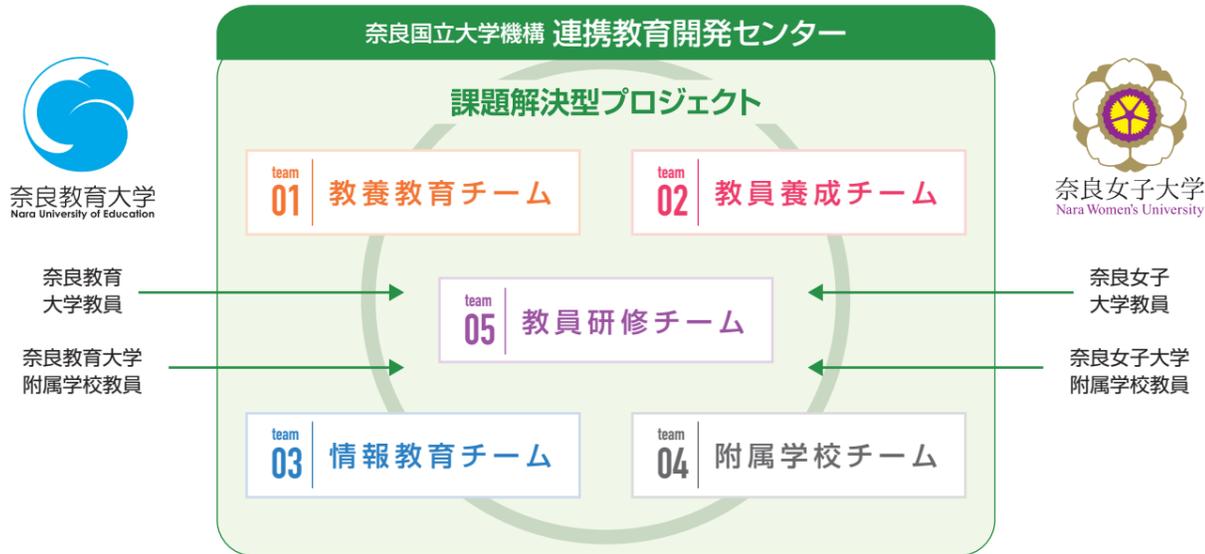
法人統合を契機に、両大学の国際交流事業の連携を進めるべく、両大学の国際交流組織を機構本部に統合し、「国際戦略センター(Nara ISC ならいすく)」を設置しました。

国際戦略の立案・実施を機構の重要課題とし、国際交流と地域活性化を循環させる「国際キャンパス奈良」の形成を目指します。



## 連携教育開発センター

連携教育開発センターは、奈良教育大学と奈良女子大学が協働して行う、両大学における教養教育・教員養成・ICTを含む情報教育、附属学校園における教育、及び現職教員研修のそれぞれに関わる事業や研究開発を先導し、高等教育の改革のみならず、教育全体の改革に寄与することを目的とし、令和4年4月に奈良国立大学機構の下に設置されました。



## 教養教育科目の連携開設

両大学の学生の選択肢を拡大し、学びの幅を広げることで、幅広い教養と豊かな人間性を備えた人材の育成を強化するため、教養教育科目の一部を連携開設しています。

### 奈良教育大学提供

フィールドワークで地域に学ぶ	河本 大地
科学技術の歴史と身の回りの物質	梶原 篤
コミュニケーションワークショップ	中山 留美子
仮名書道と実用書	北山 聡佳
ESDと防災	及川 幸彦
考古学と自然科学	青木 智史・金原 正明
キャリア形成と人権	生田 周二
ESDと学校教育	中澤 静男・大西 浩明
ESDと生活科・総合的な学習の時間	中澤 静男・大西 浩明
人権と教育	生田 周二
奈良と文学	米田 猛
「日の丸・君が代問題」の歴史的考察	今 正秀
国連SDGs入門 -「行動の10年」のためのサステナビリティの学び-	加藤 久雄

### 令和5年度連携開設科目一覧

### 奈良女子大学提供

法律学	松尾 善紀
ジェンダー生理学	島本 太香子
生活と色彩	北口 紗織
日本の言語と文学	鈴木 広光
生活の中の物理学	吉岡 英生・蜂谷 崇
人体科学	芝崎 学・中田 大貴 大高 千明
西洋の美と芸術	請田 義人
国際関係論	戸田 真紀子
数学入門	小林 毅
固体地球環境学入門	金 幸隆
環太平洋くろしお文化論	田中 希生・大賀 克彦 長田 明日華・斉藤 恵美 西村 さとみ・村上 麻佑子 矢島 洋一
科学史	杉本 舞

## 教養教育ウィーク 奈良カレッジズ学問祭

諸学に触れ、知る喜びと考える愉しみを体感し、  
知的欲求の礎を築く祝祭的な知の1週間

さまざまな分野の専門家が1コマずつ登壇します。興味や関心を深めたり、新たな分野の扉を叩くなど、うまく組み合わせて受講することで、自分なりの知的世界を構築するためのヒントや刺激に出会うことができます。



### 令和5年度 講師・テーマ

- 川人 光男(株式会社国際電気通信基礎技術研究所ほか)  
奈良国立大学機構アドバイザーボード  
脳科学とブレインマシンインタフェース
- ジュリア・カセム(ロンドン芸術大学客員教授)  
奈良国立大学機構アドバイザーボード  
社会的・経済的エンパワーメントのための  
インクルーシブデザイン・プロセスの活用
- 後藤 景子(奈良工業高等専門学校前校長)  
天職との出会い
- 吉澤 悟(奈良国立博物館)  
正倉院宝物の源流を考える
- 神野 恵(奈良文化財研究所)  
今を知るための考古学
- 小崎 誠二(奈良県教育委員会)  
ならことば考 -方言や奈良由来のことばを愉しむ-
- 加藤 久雄(奈良教育大学)  
ESD(持続可能な開発のための教育)  
に基づく日本語の観察と法則の発見
- 河本 大地(奈良教育大学)  
知られざる「へき地教育」xSDGsの世界  
-山間・離島の小規模校に未来を探る-
- 小長谷 達郎(奈良教育大学)  
絶滅危惧種を守れるか

高橋 亮(奈良教育大学)  
数学における「無限」について

梅垣 佑介(奈良女子大学)  
臨床心理学における感情と思考

高村 仁知(奈良女子大学)  
食物のにおいはどうしてできる

比連崎 悟(奈良女子大学)  
原子核とハドロンの物理学

藤田 盟児(奈良女子大学)  
美とデザインの理論

渡邊 利雄(奈良女子大学)  
遺伝子改変マウスを使って遺伝子の  
本当の働きを明らかにしよう!  
-小規模大学から出す世界基準の研究成果-

令和4年度  
「奈良カレッジズ学問祭」  
の様子



奈良女子大学・鈴木広光教授



令和5年度開講予定の講義イメージ



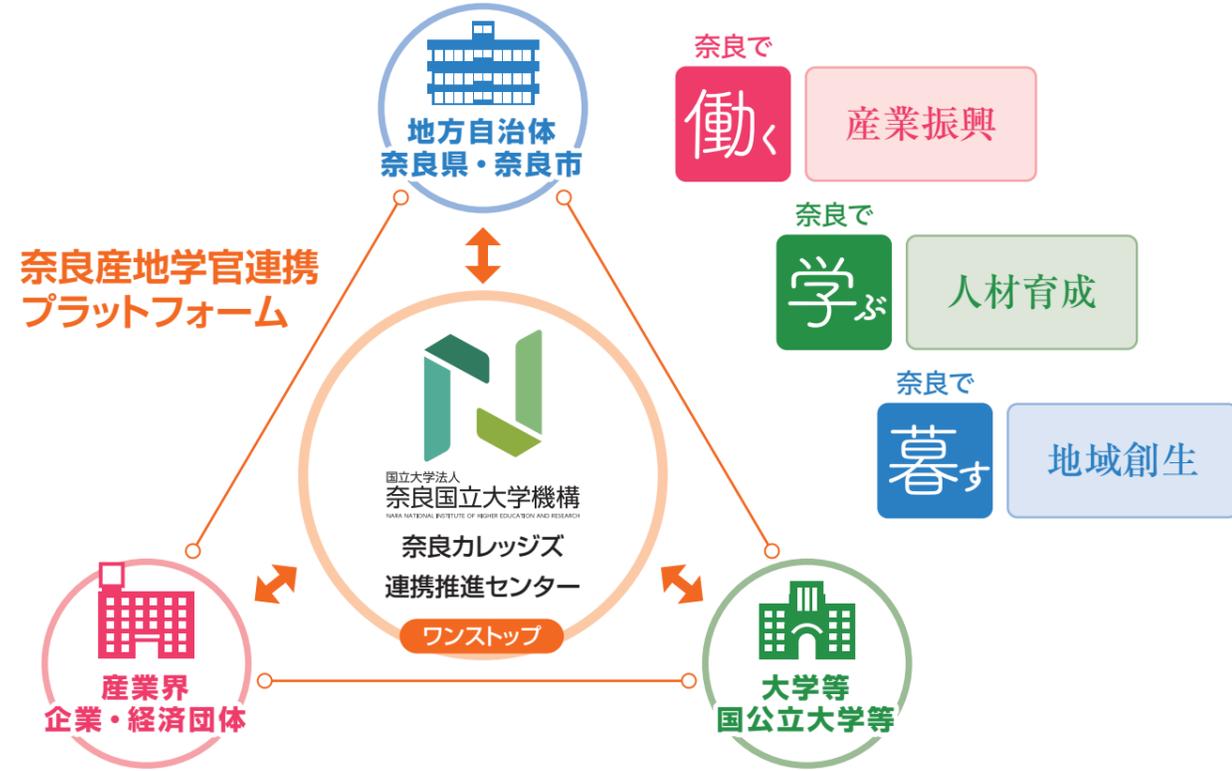
奈良教育大学・信川正順准教授



奈良先端科学技術大学院大学・塩崎一裕学長

### 奈良産地学官連携プラットフォーム

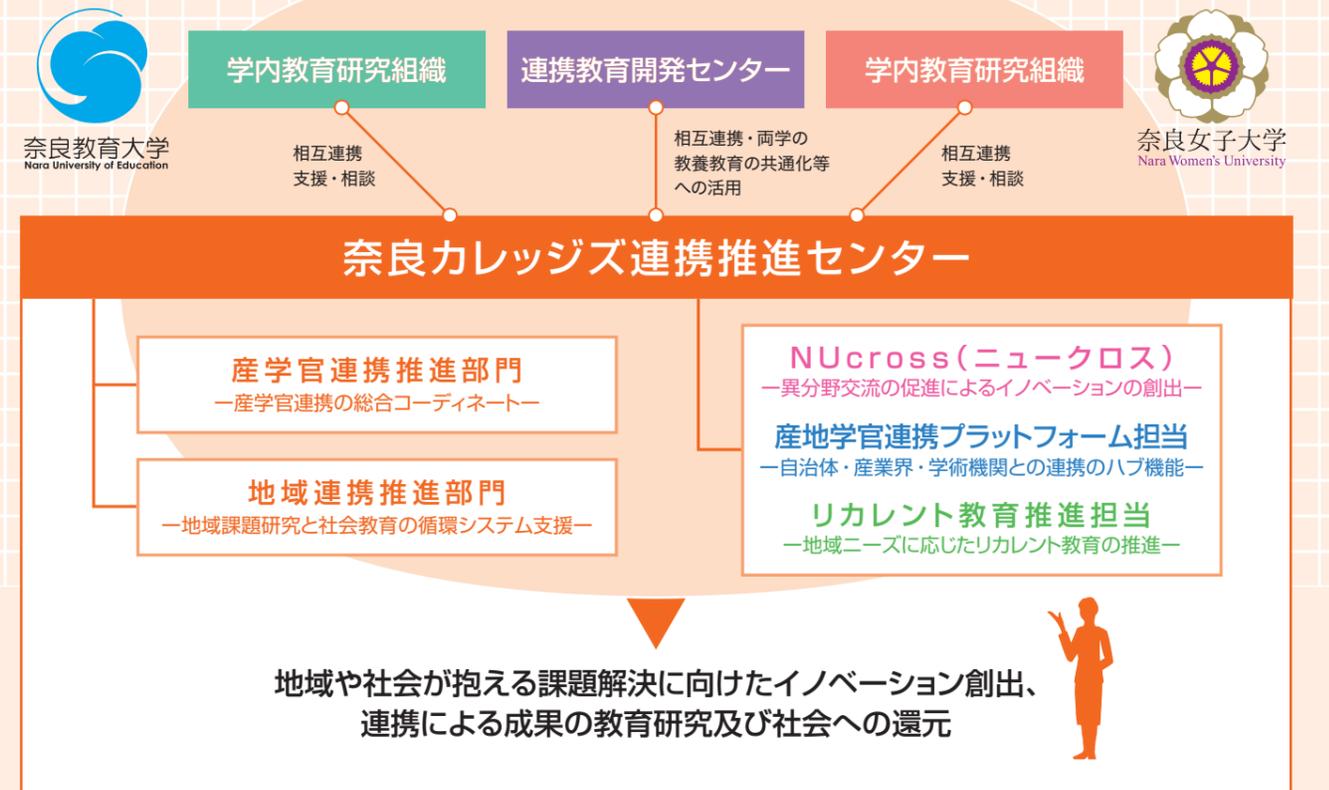
奈良県内の産業界、地方自治体、高等教育機関等が協働及び連携し、恒常的な対話の場を設置するとともに、各機関の特色を活かし、新たな価値や産業を生み出す可能性を広げ、産業振興・人材育成・地域創生に取り組み、イノベーション創出や地域の課題解決に貢献していきます。そのための実働組織として、奈良カレッジズ連携推進センターがプラットフォームのハブ機能（ワンストップ窓口）を果たします。



### 奈良カレッジズ連携推進センター

奈良カレッジズ連携推進センターは、地域や社会が抱える課題解決に向けたイノベーション創出や、連携による成果の教育研究及び社会への還元に取り組むことを目的とするセンターです。

#### 異分野交流・産学官連携・地域連携の促進



地域や社会が抱える課題解決に向けたイノベーション創出、  
連携による成果の教育研究及び社会への還元

### TOPICS

#### 産地学官連携プラットフォーム設立に関する懇談会

(令和4年12月23日)

令和4年12月23日(金)、当機構の呼びかけで県内自治体や経済団体、企業、学術機関の代表者と、産地学官連携プラットフォーム設立に関する懇談会を開催しました。仲川げん奈良市長や井村守宏奈良経済同友会代表幹事、中務陽介DMG森精機株式会社執行役員、細井裕司奈良県立医科大学長をはじめとする県内各機関の代表者より、各機関の取組紹介やプラットフォームの設立に関する意見交換が闊達に行われました。短い時間ではありましたが、プラットフォームの設立や、奈良カレッジズ連携推進センター「ワンストップ連携窓口」にご賛同いただき、今後の取組や連携について各機関からの大きな期待が感じられる有意義な懇談会となりました。



### TOPICS

#### 奈良カレッジズ交流テラス オープン

(令和5年4月1日)

異分野交流プロジェクト「NUcross (ニュークロス)」では、機構内の教職員や学生・院生が、幅広い分野に亘って研究や研修を進め、また専門分野を越え、学際的な相互啓発と協働を進めるほか、産地学官連携の各機関の壁を越えた相互の啓発や協力を進め、異分野交流、異世代交流、異組織間交流、異国間交流などの知的交流を推進していきます。

その活動拠点として、法人本部棟1階に「奈良カレッジズ交流テラス」をオープンしました。学生・院生、研究者、企業、自治体、地域住民など様々なステークホルダーの交流、マッチング、相互啓発の場として、コワーキングスペース的な活用や各種イベントの開催などを行っていきます。



奈良の地で  
学び創造、学び発信。



奈良教育大学は、学芸の理論とその応用とを教授研究し、高い知性と豊かな教養とを備えた人材、特に有能な教育者を育てるとともに、この地方に特色のある文化の向上を図ることを目的としています。

教育学部 学校教育教員養成課程	教育発達専攻	教育学専修 心理学専修 幼年教育専修 特別支援教育専修	専門職学位課程(教職大学院) 大学院教育学研究科 修士課程	教職開発専攻	学校教育マネジメントコース ●学校組織マネジメント領域 ●学級づくり・特別活動マネジメント領域 ●ESDマネジメント領域 ●教育情報化マネジメント領域
	教科教育専攻	国語教育専修 社会科教育専修 数学教育専修 理科教育専修 音楽教育専修 美術教育専修 保健体育専修 家庭科教育専修 技術教育専修 英語教育専修		教育発達支援コース	●生徒指導・学校カウンセリング領域 ●幼年教育領域 ●インクルーシブ教育領域
	伝統文化教育専攻	書道教育専修 文化遺産教育専修		教科教育コース	●言語・社会科学領域(国語、社会科、英語、小学校外国語) ●理数・生活科学領域(算数・数学、理科、技術、家庭科) ●芸術・保健体育領域(音楽、美術、書道、保健体育)
				伝統文化教育・国際理解教育専攻	伝統文化(書道を含む)教育・国際理解教育専修

## 奈良教育大学の3つの柱

1. 人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究
2. 持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成
3. 教員養成と教員研修の融合

## 奈良教育大学の特色

### 大学として、全国初のユネスコスクール

■「奈良教育大学ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言」に基づき、3つの附属学校園を含め、「誰一人取り残さない」教育活動を目指しています。

### 教育による地域・社会貢献

■インクルーシブ教育、理数・情報教育、山間部の学校教育、教員を志す高校生への教育等、地域・社会のニーズに対する支援を行っています。

■各種公開講座等によって、開かれた教育大学として地域の人々の学びを支援しています。

### ESD(持続可能な開発のための教育)を核とした教員養成・教員研修

■「持続可能な社会の創り手」の育成に寄与できる実践的指導力をもった教員の養成・研修を行っています。

■ESDの推進拠点として、世界、日本、地域のESD推進を牽引し、教育の立場からSDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指しています。



## Topics | ESD・SDGsセンターが発足 全国交流会など開催



キックオフイベントの様子

全国交流会の様子

令和4年4月の発足後、国際連合事務総長特別顧問を招いたキックオフイベントや、東京都の奈良まほろば館での設立記念イベントなど、ナショナルセンターを目指して取り組みを展開しています。

令和5年2月には全国のESDコンソーシアムやESD関連団体を招聘した全国交流会を開催するなど、全国的な成果と課題の共有を先導して進め、ESD for 2030に向けたプラットフォームの構築をめざし活動しています。

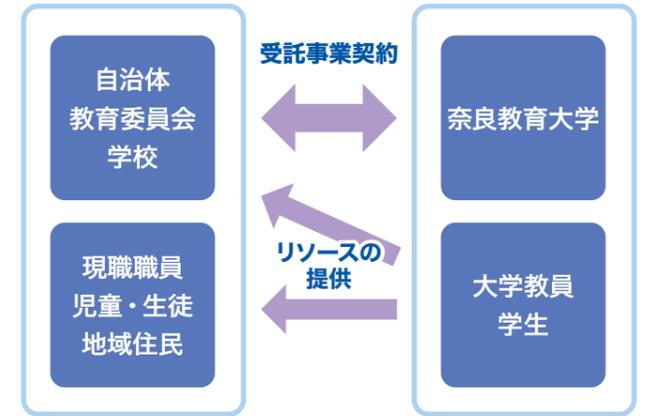
## Topics | 教育・学術支援事業の開始

外部機関からの依頼を受け、奈良教育大学の研究者が専門的な知識に基づいて学術的な知見での指導・助言を行い、教育面、研究面で支援を行います。

これまでに、奈良県内高等学校の探究活動支援や、現職教員研修会の支援などを行っています。



奈良県立添上高等学校の探究活動支援の様子



教育支援事業費は教育研究費・受託事業費として大学の教育・研究に還元されます

## Topics | 教育DXの推進

企業や教育委員会と連携し、学校教育のDXに向けた取り組みを開始しています。

1. 教育データの活用課題の調査研究
2. 教育コンテンツの整備・活用の実証研究
3. デジタル教科書の実証研究
4. クラウド活用によるデジタル教材開発



ICTを活用した楽しい授業づくりや教員の働き方の改善を目的とした、ソフトバンク社との協定締結の様子

凛としてほがらかに、  
輝ける女性リーダーへ。



## 4学部1研究科を擁する女子の最高教育機関

### 文学部

▷人文社会学科 ▷言語文化学科 ▷人間科学科

### 理学部

▷数物科学科 ▷化学生物環境学科

### 生活環境学部

▷食物栄養学科 ▷心身健康学科  
▷住環境学科 ▷文化情報学科

### 工学部

▷工学科

### 大学院人間文化総合科学研究科

博士 前期課程 ▷人文社会学専攻 ▷言語文化学専攻  
▷人間科学専攻

▷数物科学専攻 ▷化学生物環境学専攻

▷食物栄養学専攻 ▷心身健康学専攻  
▷情報環境学専攻 ▷住環境学専攻 ▷生活文化学専攻

▷生活工学共同専攻

博士 後期課程 ▷人文科学専攻 ▷生活環境科学専攻  
▷自然科学専攻 ▷生活工学共同専攻

## 奈良女子大学の4つの基本理念

理念1 男女共同参画社会をリードする人材の育成 - 女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ -

理念2 教養教育、基礎教育の充実と専門教育の高度化

理念3 高度な基礎研究と学際研究の追究

理念4 開かれた大学 - 国際交流の推進と地域・社会への貢献 -

## 奈良女子大学の特色

### グローバルに活躍する人材育成

教育研究のグローバル化の推進と地方創生

- 海外留学の推進(マンツーマン英語レッスン・インターンシップ研修)
- 国際空間「CotoQue(コトーク)」
- 大和・紀伊半島学研究所

### ダイバーシティ

奈良から、関西から、女性研究者の支援を牽引

- 女性研究者の研究力向上
- 子育て支援システム
- 共同研究スタートアップ支援制度

### 理工系女性リーダーの育成

文理を越えた幅広い視野を持ち世界に通用する女性リーダーの育成

- 集まれ!理系女子
- グローバル理系女性育成国際サマーキャンプ(SCORE)
- 中等教育改革プロジェクト



## Topics | 日本の女子大学史上初 2022年4月 工学部工学科開設



DMG MORI棟竣工記念テープカット



記念式典の様相

初年度は48名の入学者を迎えました。企業とも連携し、女性エンジニア養成拠点を目指します。

## Topics | 自治体・企業・研究所との連携



奈良市



株式会社国際電気通信基礎技術研究所

### 【2022年度の連携実績】

SONY株式会社  
王寺町  
吉野郡下北山村  
武庫川女子大学

イノベーション創出に向け、自治体・企業・研究所との連携を推進します。

## Topics | 関西財界セミナー賞2023 輝く女性賞 受賞

全国的女子大学初の工学部を新設し、工学教育を学びたい女性の選択肢や可能性を増やすとともに、今後、エンジニアリングの世界で多くの女性が活躍し、研究開発に更なる多様性がもたらされることが大いに期待されることなどが評価され、今回の受賞に至りました。





## 国立大学法人 奈良国立大学機構

〒630-8506 奈良市北魚屋東町（奈良女子大学内） TEL.0742-20-3204  
<https://www.nara-ni.ac.jp/>

### ロゴマーク

国立大学法人奈良国立大学機構のロゴマークは、奈良教育大学の「N」、奈良女子大学の「N」をモチーフに、堅牢に立つ両端の柱と、双方が寄り添う形状で、それぞれの力・知恵を結集するシナジー効果を表現したマークです。  
カラーは新しい芽吹きイメージ、若草山をはじめとする奈良の緑のイメージをもとに、「ふかみどり」「うすもえぎ」「ひすい」「もえぎ」と日本の伝統色を使用しています。



奈良教育大学  
Nara University of Education

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL: 0742-27-9105  
<https://www.nara-edu.ac.jp/>

教育学部  
大学院 教育学研究科 教職開発専攻  
伝統文化教育・国際理解教育専攻



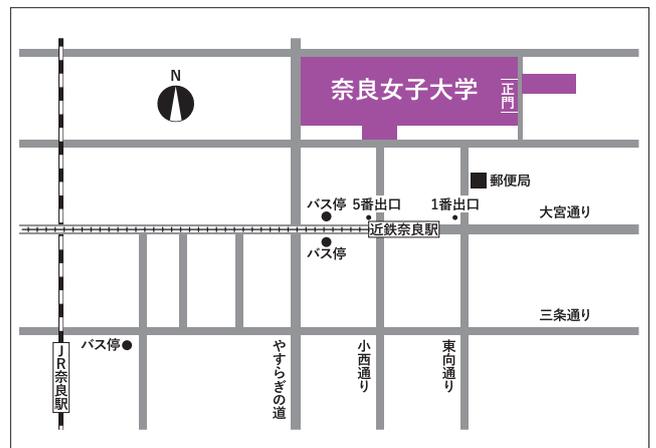
奈良女子大学  
Nara Women's University

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 TEL: 0742-20-3204  
<http://www.nara-wu.ac.jp>

文学部  
理学部  
生活環境学部  
工学部  
大学院 人間文化総合科学研究科  
博士前期課程 博士後期課程



●近鉄奈良駅もしくはJR奈良駅より市内循環バス 奈良交通バス 約10分「高畑町」下車すぐ



●徒歩 近鉄奈良駅改札1番出口より徒歩6分/JR奈良駅より徒歩15分  
●JR奈良駅より市内循環バス 奈良交通バス「近鉄奈良駅前」下車、徒歩7分